

たんぽぽだよ!



『障害のあるなしにかかわらず』

施設長 佐藤和幸

毎年、施設にある早咲きの梅が咲くとメジロなどの鳥たちがたくさんやってきます。今年は暖かい風の日もあってその梅も既に散り始めています。四月生まれの私は春の花や若葉が始めるこの時期はともわくわくした気分になります。

ここ最近、駅や商業施設にあるエスカレーターを私は出来るだけ使わずに階段で上り下りするようになっています。もちろん、自分の健康を意識する歳になったこともありですが、最近になってエスカレーターを利用する人の中には本当に様々な方がいるということに改めて気づかされたからです。

そのきっかけの一つはある視覚障害の方との出会いです。その男性は混み合う電車の中で白杖だけを頼りに立たれていたので、声を掛けて近くの手摺に案内しました。その流れで行き先を伺うと、ホームがカーブした狭い駅を降りられるとのこと。私は駅の改札まで一緒にしました。

しかし、視覚障害の方の誘導に慣れていない私は、白杖を持たれていた左側の方が安心されるだろうと思い、「左側に立ちますがよろしいですか」と尋ねると男性が頷かれたので、駅に着くとその立ち位置になって改札まで一緒にしました。



「作業中は静かにね」と声を掛けてくれます。

しかし後で考えた時、その方はもしかすると右側に立って欲しかったのかも知れない、けれど

ど遠慮して言わなかったのでは、と思うようになりました。

すると別の日、その方を同じ電車で見かけたので、私が「以前もお会いした者です。一緒にさせていただきますか」と聴くと「お願いしていいですか」と答えました。そして降車駅に着いた時、今度は「どちらに私が立った方がいいですか」と伺うと「できれば右側が助かります」と笑顔で言われたのでした。

その後、視覚障害者について調べてみると、階段やエレベーターよりもエスカレーターを利用する人が多いというアンケート結果を見つけました。関東ではエスカレーターの右側は歩いて利用する人が通るため（最近では歩かないよう推奨されています）、この男性が利用する場合には本当は掴まりたい右側のベルトを頼ることはできないことになりました。公共の場で便利であるはずのものが一部の人間にとっては使い辛いものになっているのかも知れません。そうした方も気持ち良く使えればという思いもあって、なるべく階段を使うようになったという訳です。

社会の中にある多くのものは、利便性を考えてつくられたルールを決めたりします。多くの人が使えるようにするために意見の多いものを取り入れながら進めるのは必然的なことと言えますが、その一方で様々な人や少数派の人の意見はもちろん、言い出せない人の思いに寄り添うことも大切な時代です。

全ての人が満足する万能なモノを作ることではできません。私たちにできるのは、多様な人がいるということを知ること、そして互いの思いを尊重しながら支え合うことです。相手の心を思い遣る気持ちは、違いを超えて絆を結ぶことができます。

私はずっとお伝えさせていただいた、「障害のあるなしにかかわらず」は、「誰でも自分らしく、笑顔で暮らせる社会をつくる」ことです。私たちはきっとそれを実現できると思うのです。



4月の活動予定



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14 開所日
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29 昭和の日	30 振替休日					

ご協力お願いします！！

ご自宅やオフィスなどで使用していない健康器具が
ございましたら教えてください。

ご利用者の健康維持・体力づくりのために使用した
いと思っております。

ぜひ、ご連絡をお待ちしております。

お問い合わせは たんぽぽ まで



★いちごグループ（生活介護）の取り組み★

今年1年間、環境整備と活動プログラムの充実を図ることに力を入れて取り組んできました。

特に活動プログラムでは作業中心の活動から、調理や運動、音楽やレクリエーションなど皆で取り組める活動に変更してきました。その結果、どの活動場面でもそれぞれが役割を持って取り組み、仲間で声をかけ合いながら楽しく活動に参加される様子が多く見られるようになりました。

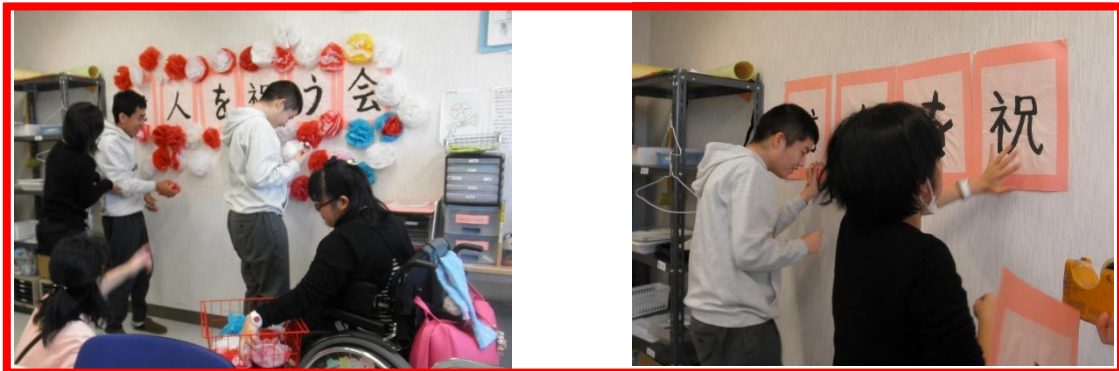
また、“生活介護”と自分たちの部屋を呼んでいましたが、皆で名前を“いちごグループ”と決めた名前が、少しずつ定着しつつあります。

“生活介護”という名称でまだまだ誤解されていることが多くありますが、“介護”を行っているのではなく、“働く”ことを前提とした活動(支援)を行っています。1つ1つの活動に利用者一人一人の目的があり、どれも働くために必要な力を身につけるために行っています。作業の活動になると誰もが皆、仕事モードの真剣な表情になっています。

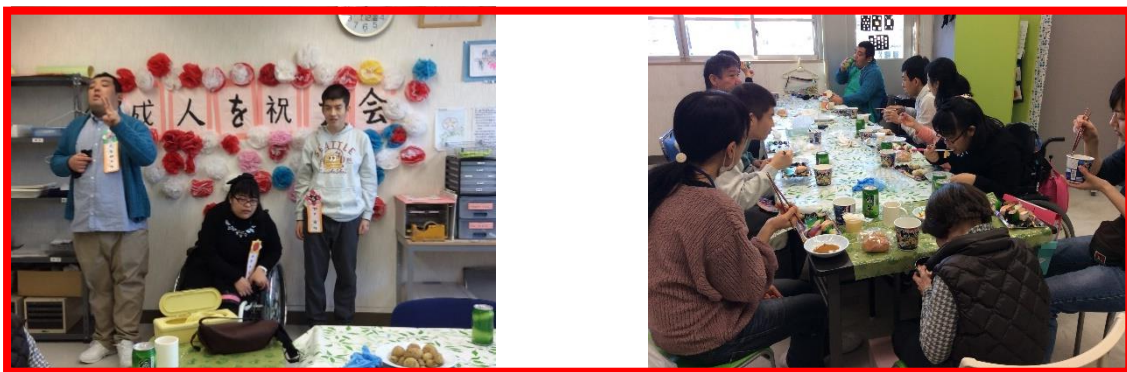
“働く”ことを前提とした支援を行っていますが、私たちが一番大事にしていることは利用者1人1人の意思の尊重です。いちごグループの皆さんは自主性があり、自分で“～がしたい”という自己主張がはっきりしています。これは働く上だけでなく、生活していく上でとても大切なことです。

障害をもっている人は“～ができないから…”とされていることが多いのですが、多くの人は経験が少ない分知らないことが多いだけなのだと思います。いちごグループではたくさんの経験ができるプログラム作りを今後も続けていきたいと思っています。ぜひ、いちごグループの活動を見ていただきたいと思っていますので、多くの方の見学をお待ちしています。

【成人を祝う会の様子】



部屋の飾り作りから飾りつけまでみんなで協力して行いました。



みんなの前で二十歳になった抱負を発表！ 食事をしながらみんなでお祝い会スタート。

☆就労継続支援 B 型の一年をふりかえり☆

今年度は工賃アップを目指し、作業能力を上げる事を目標に進めてきました。

今までより受注量を増やしましたが、複数の作業を同時進行で進められるようになりました。

そしてペースが上がっただけではなく、一番の変化はご利用者の「態度」面でした。

新しい作業をする機会が増えた事で、自分がやった事のない作業でも応用力がついたり、「私にもできるかな?」と自分から興味を示したり、今まで拒んでいた箱折り作業を仲の良い人と一緒に取り組む事でできるようになったりした方もいました。また、納期・納品数を提示する事で見通しが持てるようになり、「みんなあともう少しだから頑張ろう」と声を掛け合い、協力する場面が多く見られました。

紙袋の台紙入れ作業が急に来た際も、皆で力を合わせて 3 日で 10,000 部仕上げる事が出来ました。ぎりぎりまで納期に間に合うか分からずとにかく夢中になって作業を進めていきましたが、その仕事が終わった時の表情はとても生き生きと達成感に満ちあふれていました。

「失敗したらどうしよう」と思って新しい作業をする事に躊躇していたのは、逆に職員の方であったと改めて痛感しました。この一年で取り組んだ作業がご利用者の自信につながり、またそこからそのご利用者の可能性を広げられると実感しました。

今後も引き続き、「やってみよう」という前向きな気持ちを大切に、皆さんが生き生きと仲間同士が楽しく働ける環境を作っていけるように、これからも支援をしていきたいと思えます。

